

江川義雄先生を偲んで

原田 康夫

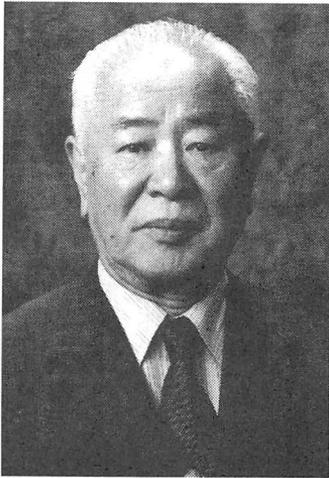
広島市病院事業管理者

「広島県医人伝」一、二集の著者、広島県の医史学研究の重鎮で推進者の江川義雄先生が鬼籍に入られた。先生は、産婦人科医であるかたわら、広島県の医人伝について早くから研究され、三年前に広島県医人伝の三集を書き終えられた。これまでの一集、二集と共に三集として平成十四年年六月に出版された。十年前に心筋梗塞をさされてから健康を害され、入、退院を繰り返されていたが、本年六月十八日に享年八六歳で亡くなられた。先生は大正八年、広島県福山市松永町で生まれられ、岡山大学医学部卒で、長年江川クリニックの院長を勤められ、産婦人科医として日本産婦人科学会評議員、日本医史学会評議員、広島県医師会常任理事などを歴任されてきた。

平成二年には日本医師会最高優功賞を受賞されている。

広島大学医学部も先生には大変お世話になり、三十年前、広島大学医学資料館設立の時、県内各方面から貴重な医史学的資料を集めた際に大変ご尽力下さった。その後、医学資料館は広島大学附属病院新病棟建設で医学部構内に被爆レンガを前面に使い移転したが、更に多くの貴重な資料が蒐集され、国内でも第一級の医学資料館になってきた。

なかでも、一番貴重な資料は国の重要文化財「星野木骨」である。



この木骨が広島大学医学部所蔵となつたきっかけは江川先生のご助言があったからである。

先生は、広島県の医人、吉益東洞、土生玄碩、富士川游などの先哲の業績だけでなく、多くの広島県医人の紹介を克明に広島県医師会報に長年発表され、日本医史学会にも発表してこられたが、特に一七八九年に広島で行われた二体の腑分けの刑死体から木骨を作らせた星野良悦や、広島藩の葉草園（日涉園）を残した後藤松眠、後藤松軒等の幕末の医師が高野長英逃亡の手助けをするなど広島の医史学を飾る出来事なども詳細に書き残された。

特に広島で開催された第八七回日本医史学会総会の会長を私がつとめさせていただいたのも、そのしかけ人は江川先生である。そのとき、後藤家所蔵の「星野木骨」を広島大学に寄付していただき医学資料館に収め広く公開すべきだのご助言いただいた。

広島での日本医史学会の時にはこのことは実らなかったが、以来、私と後藤家とを結びかけとなり、私が広島大学学長のとき後藤家より星野木骨と広島市重要文化財、日涉園四百坪を医学部に移管していただく事になったのである。「星野木骨」は広島大学移管の後、平成十六年に国の重要文化財になり、高野長英の隠れ住んだ家は平成十五年にお茶室に復元し現在は広島大学医学部の所属としている。

先生は広島県医人伝などご自分の医史学的研究以外に、医史学的重要性のある資料、星野木骨、広島市の重要文化財日涉園など公共性のあるものを広島大学医学部などで管理する重要性に気づかれ、これを私達にご助言くださった慧眼に深く感謝し、長年広島県医史学会でご指導いただいたことなど、これまでの御遺徳を偲んで先生のご冥福を心からお祈りする次第である。